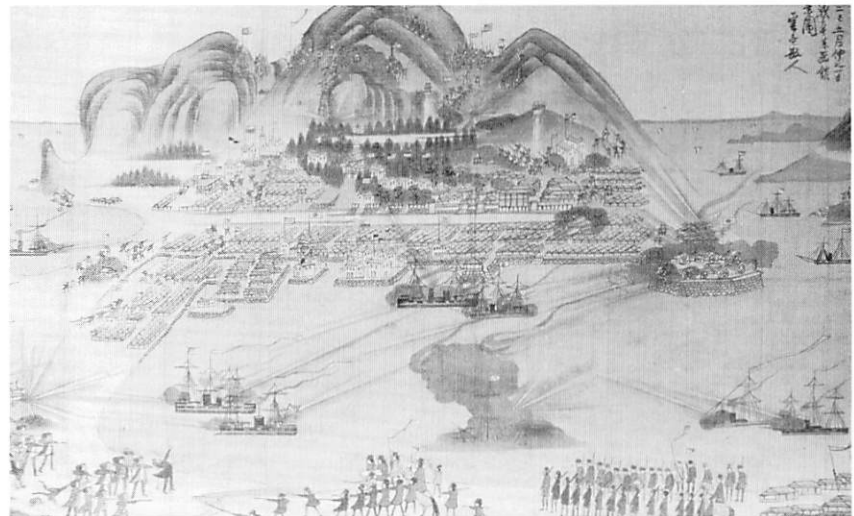


箱館戦争図

幕末から明治への大きな変動のうねりの中で、蝦夷地を舞台に展開された箱館戦争は、封建制社会の終わりを告げるものであり、また蝦夷地の開拓を巡る戦いでもあった。

明治元年（1868）10月に鷲ノ木へ上陸後、五稜郭を占拠した榎本武揚率いる旧幕府脱走軍は、道南各地を攻略し蝦夷全島をほぼ平定したため、仮政権を樹立するに至った。一方明治2年（1869）に入り、青森口へ退却していた新政府軍は、兵の増強をはかり蝦夷地への進攻に備えていたが、4月9日には乙部村への上陸を敢行することとなった。そして、兵数の上で優位に立つ新政府軍は、逐次各地を奪回するようになり、旧幕府脱走軍は次第に箱館方面へ後退を余儀なくされた。この後、箱館近郊まで手中にした新政府軍は、いよいよ5月11日に海陸両面からの箱館総攻撃を実施し、各所で旧幕府脱走軍を圧倒する結果となった。このため、箱館市街は新政府軍が制圧することになり、7日後の5月18日には、榎本武揚以下が降伏し、五稜郭が明け渡されて戦争は終結した。

この絵図は、「明治二己五月仲之一日海陸戦争并函館真景圖 雲屯散人」と記されているように、5月11日の箱館総攻撃の様子を描いたものである。図中からは、七重浜での交戦・箱館山からの奇襲・箱館港内での艦戦など、当日の戦闘状況を窺い知ることができる。



〈学芸員：田原良信〉

平成元年度特別展「五稜郭からのメッセージ」

特別展「五稜郭からのメッセージ」が7月18日～9月24日まで、五稜郭分館にて開催されました。今までは、五稜郭が箱館戦争の舞台としてだけ理解されていたようで、そのために五稜郭の持っている歴史的価値を過小評価していたと思われるのです。今回の特別展のタイトルをあえて「メッセージ」としたのはこのためです。

この点については、これまで進められてきた五稜郭整備事業に関連しての発掘調査などから、奉行所を核とした箱館奉行との関連の中でとらえるように



特別展「五稜郭からのメッセージ」観覧風景

なっています。また、ほとんど知られることがなかった最後の箱館奉行・杉浦誠による日記が見つかるなど、少しずつ箱館戦争以外の資料が蓄積されつつあります。

今回の展示は、このような資料も含めて、五稜郭の「場」の歴史性を理解していただくため4つのステージに分けて展示を構成したのです。つまり、五稜郭という「場」はⅠ「箱館開港と五稜郭」、Ⅱ「箱館奉行の設置と五稜郭築造」、Ⅲ「幕府から新政府へ」、Ⅳ「旧幕府脱走軍による五稜郭占拠」というタイトルでも明らかなように多くの歴史的情報を持っていたことが理解できるのです。

そして、このようなひとつひとつのメッセージは函館の歴史的イメージをもふくらませてくれることが期待できるのです。ですから、博物館の歴史的展示の一つの方法として「場」のメッセージ的手法を用い、これを蓄積することによって函館の歴史的イメージをデザインすることが可能ではないかと考えているのです。つまり、空間を立体化することそれこそ歴史性が内包されていることの証明でもあるのですから……。

〈学芸員：根本直樹〉

楽しい市民講座へ

昨年、市民講座への参加者数が少ないのではないかという声が聞かれた。これは博物館の市民講座が実技や体験を伴う企画が多く、開催数に対して募集人員数が少ないのが直接の原因であるが、多分この講座の内容を知らないでの批判であろう。

しかし、博物館を幅広く市民に利用してもらうためには、人の集まり易い内容も必要である。中身を落とさず、楽しく多くの人を収容できる講座といえば、「歴史」の開催数を増やすことで、今年度から「青函交流史」と題したシリーズも含めて開講することとした。講話だけの講座は、集会室に多くの人を収容できるので、募集数を一挙に今までの20名から倍に増やすことができる。また、講師を博物館学芸員や地元の人以外の青森県からも招請した。この点参加者数の面から見ると、大きな改善となったようである。

青函トンネルが開通してから、青函の交流が多くなってきている。このような状況から函館市民が、



市民講座「青函交流史」講座風景

対岸の青森県の歴史を深く理解する必要があるのではないだろうか。これが函館自体を知る方法の一つである。

〈学芸員：岡田一彦〉

事業報告 (64. 1. 1～元. 12. 31)

◎資料管理・整理・保存

○受入

- ・油彩「アルフレッド・ジョージ・デンビー肖像」他 47件
【コンスタンティン・ブレーゾ氏寄贈・横浜市中区山手町107番地】
- ・出港税納入文書他 15件
【多田敏捷氏寄贈・奈良市西大寺栄町3-32-307】
- ・明治41年北海道煉瓦製造所日誌他 2件
【加藤 新氏寄贈・栃木県芳賀郡益子町大字益子4240番地6】
- ・ひな人形 一括
【松岡美雄氏寄贈・函館市高松町575-66】
- ・片起プラウ他 9件
【水島善蔵氏寄贈・函館市本通3丁目3-1】
- ・大正期の函館絵はがき 1件(147点)
【林 輝夫氏寄贈・愛知県犬山市橋爪字末友5】
- ・ラジオ 1件
【藤浪俊男氏寄贈・函館市梁川町26-13】
- ・西洋釘抜 1件
【山上辰雄氏寄贈・函館市大町1-29】
- ・火のし 1件
【若月哲二氏寄贈・函館市元町32-27】
- ・記章 1件(24点)
【熊本正彦氏寄贈・函館市入舟町16-11】
- ・詩書(大鳥圭介) 1件
【高野清次郎氏寄贈・札幌市西区山の手7条7丁目4-7】
- ・弁財船(模型) 1件
【吉田忠雄氏寄贈・函館市宝来町13-14】
- ・軟玉ヒスイ 1件(5点)
【久保内サヨ氏寄贈・函館市本通2丁目7-20】
- ・洋箏笛他 18件
【浅川広子氏寄贈・旭川市春光町2区1条】
- ・下駄類 一括(5点)および自在鉤 1件
【松田ミツ氏寄贈・函館市千代台町28-22】
- ・測量器 1件
【森実清次郎氏寄贈・函館市杉並町3-6】
- ・写真 1件
【高田セツ氏寄贈・東京都世田谷区尾山台2-2-11】
- ・長火鉢他 3件
【井川 清氏寄贈・函館市桔梗町359-37】
- ・食器籠 1件
【伊藤亮三氏寄贈・函館市日吉町1-29-14】
- ・静物(田辺三重松画)油彩他 2件
【葛西公平氏寄贈・函館市本町5-10】
- ・雪下駄 2件(3点)
【小山フサ氏寄贈・函館市戸倉町20-1】
- ・アイヌ喫煙具 1件
【加納季子氏寄贈・函館市田家町9-20】
- ・箱館市街全図 1件
【飯塚喜市氏寄贈・秋田県秋田市下北手松崎字家の前215-6】

○整理

自然科学資料(植物)整理
考古資料整理

○保存

ばく涼

本館 12月14日～12月30日
分館 9月25日～10月16日

○貸出

- ・北方歴史資料館展示 2件
(1月6日～3月31日)
- ・函館市北洋資料館常設展示 25件
(4月1日～3月31日)
- ・旧函館区公会堂常設展示 2件
(4月1日～3月31日)
- ・「坂のある街、函館・横浜・長崎・神戸エキゾチック物語展」展示 16件
(4月28日～5月13日・榎大丸神戸店)
- ・「明治の電車の思い出展」展示 43件
(6月10日～6月18日・函館市役所)
- ・市の魚制定記念「イカのパネル展」展示 16件
(8月1日～8月5日・函館市役所)
- ・函館市北洋資料館展示 2件
(8月25日～9月4日)
- ・水産市場魚まつり協賛「市の魚パネル展」展示 16件
(8月11日～10月25日・函館市水産物地方卸売市場)
- ・「水道100年展」展示 10件
(9月19日～9月26日・ボーニモリヤ)
- ・「青函トーク会議」展示 10件
(9月26日～9月28日・金森ホール)
- ・苫小牧市博物館特別展「貨幣の歴史展＝本間コレクション」展示 8件
(12月12日～1月31日)

◎展示

○特別展

五稜郭からのメッセージ(分館7月18日～9月24日)

○企画展

新収蔵資料展(本館 10月3日～12月13日)

○常設展

展示替(本館 12月)

◎教育普及

○市民講座(7回 220名)

土器をつくる会(6月25日)
青函交流史「昆布ロードと箱館」(7月16日)
植物観察会(7月30日)
「五稜郭」の謎を探る(8月13日)
青函交流史「東日流外三郡誌と箱館」(9月10日)
わらざうりをつくる会(11月19日)
アイヌの技・服飾にみるアイヌ文様―(12月9日)

○科学教室 (12回 381名)

植物野外観察会 (5月7日)
 春の星座観測会 (5月13日)
 天体望遠鏡の使い方と星座観測 (6月10日)
 夏の星座と七夕 (7月1日)
 昆虫野外観察会 (7月16日)
 市電のしくみと駒場車庫見学会 (7月26日)
 夏休みの工作—自然と木工 (8月3日)
 鉄道車両のしくみと函館運転所見学会 (8月9日)
 天体望遠鏡の使い方と月の観測会 (9月9日)
 秋の星座と天の川 (10月7日)
 冬の星座観測会 (11月18日)
 工作—たこを作ってみよう (12月3日)

○出版

3月15日 館報「サラニップNo.28」発行

○調査・視察

2月17日 苫小牧市博物館吉田氏、苫小牧市埋蔵文化財調査センター福与氏資料調査
 2月19日 小樽市立文化館大石館長・小樽市立美術館木下氏・NHK釧路放送局嶺野氏資料調査
 3月7日 国立歴史民族博物館鈴木氏研修視察
 3月11日 北海道開拓記念館関主任学芸員・中田課長中村主事・中国留学生卓維氏資料調査
 3月15日 盛岡市中央公民館船越氏資料調査
 3月24日 国立民族博物館大塚助教授資料調査
 5月12日 名古屋市教育委員会一行視察
 5月18日 江差町文化財調査委員会一行視察
 5月30日 ソ連レニングラードTVプロデューサーラズモフ氏視察
 6月2日 大阪府森口市教育委員会一行視察
 7月7日 東京都田無市教育委員会一行視察
 7月8日 狭山市教育委員会一行視察
 8月23日 姫路独協大学吉田教授資料調査
 9月13日 北海道文書館小島係長資料調査
 10月13日 神奈川県立博物館上村管理部長視察
 10月17日 埼玉県入間市教育委員会一行視察
 11月1日 岩手県立博物館金子館長・赤沼氏資料調査
 11月16日 室蘭市民俗資料館久末学芸員資料調査
 12月3日 北海道開拓記念館野村氏資料調査
 12月14日 明治大学考古学博物館熊野氏他視察

○写真撮影・提供・転載許可

博物館資料の写真撮影など 71件

○実習生受入 (10名) 9月16日～10月6日

北海道教育大学函館分校 7名
 東北学院大学 1名
 共立女子大学 1名
 弘前学院大学 1名

◎会議出席

○博物館大会

北海道博物館大会に木村館長参加
 (7月5日～6日帯広市)

◎人事異動

加納 裕之 館長退職 (3月31日付)
 木村 繁 館長発令 (4月8日付)
 中村 公宣 学芸員 社会教育部文化財課に異動 (5月1日付)
 田原 良信 学芸員 発令 (5月1日付)
 根本 直樹 学芸員 市史編さん室兼務発令 (5月1日付)
 龍宮寺和子 臨時職員採用 (6月1日付)
 平田美枝子 臨時職員退職 (8月15日付)
 前川久美子 臨時職員採用 (8月16日付)
 龍宮寺和子 臨時職員退職 (10月31日付)
 長谷部一弘 学芸員 財団法人函館市文化・スポーツ振興財団に派遣 (11月1日付)
 宮川絵里香 臨時職員採用 (11月1日付)

入館者統計

平成元年常設展示 (S64. 1. 1～H1. 12. 31)

月別	本館	分館	資料館	計
1	208	846	214	1,268
2	452	2,693	761	3,906
3	644	3,220	752	4,616
4	984	5,907	720	7,611
5	4,269	18,916	3,028	26,213
6	1,912	12,253	1,842	16,007
7	1,006	3,847	1,938	6,791
8	2,267	(特別展) —	3,951	6,218
9	1,096	(特別展) —	2,848	3,944
10	1,190	5,234	1,785	8,209
11	481	4,820	808	6,109
12	86	1,304	450	1,840
計	14,595	59,040	19,097	92,732

平成元年度特別展 五稜郭分館 (7/18～9/24)

月別	個人	団体	計
7	4,920	159	5,079
8	19,390	538	19,928
9	7,745	1,067	8,812
計	32,055	1,764	33,819

— あ と が き —

昨年11月3日、函館市北方民族・石川啄木資料館がオープンしました。博物館の活動も市民との結びつきを深めるとともに、観光の一翼を担う重要な社会教育機関となりつつあります。

木村 繁新館長を迎え、博物館の体制充実により一層力を注いでいきたいと思います。

〈学芸員：岡田一彦〉

Hakodate City Museum News

SARANIP —サラニップ— No.29 1990. 3. 15発行
 編集・発行 市立函館博物館 (TEL0138-23-5480)
 北海道函館市青柳町・函館公園内 (〒040)